



株式会社人づくり・学び舎
 代表取締役

浦井 啓子 Urai Keiko

すべての人が「働く幸せ」
 を実感できる、
 そんな社会を実現したい

新年あけましておめでとうございます。昨年はキャリア教育について教えて欲しいと多方面からお声かけいただき、少しずつではありますが、キャリア教育の広がりを感じた一年となりました。今年はずっと精進できる一年としたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。
 【人づくり・学び舎新聞】では、多くの方に「キャリア」や「キャリア教育」の意義と必要性をお伝えするために、様々な観点から情報提供や活動内容の発信を中心に発行しています。

キャリア教育コーディネーター × レポート

14歳の挑戦の事前講座（マナー講座）を担当しました！



実際の企業で5日間の職業体験ができる貴重な機会となっている中学2年生の「14歳の挑戦」。生徒の皆さんにとっても、受け入れてくださる地域の事業所さんにとっても、この機会が意義ある時間となる様に体験的にマナーを学ぶ講座を行いました。

まず最初に、生徒の皆さんに「14歳の挑戦」で得られる体験をどう意味づけるのか、14歳の挑戦の目的について説明をしました。

- (1) 自分自身のキャリア選択のためであるということ。「自分自身の将来や、働き方、職業、社会の仕組み」などに意識を向け、自身の働き方を具体的に考えるきっかけとする。
- (2) 社会におけるマナーの必要性についての理解を深める。
- (3) 「働く」というテーマで家族と話をし、感謝の気持ちを持ち、伝えること。



その上でマナーの種類やお辞儀や言葉遣いなど、ロールプレイを交えて体験してもらいました。マナーを学ぶためには、実際に練習してみることが一番の近道です。正しい方法を知り、繰り返し練習することで、自然とできる様になります。



カウンセリングの手引き

Q. キャリア・カウンセリングはどのようなねらいで行われるのでしょうか？

A. キャリア・カウンセリングは悩みや迷いを持つ生徒だけでなく、全生徒を対象として行うことが望ましいと思います。子どもたちのキャリア発達には自己の新たな可能性の発見や自己理解の深化など内面の成長と深く関わっている為、キャリア教育の取り組みにおいては、一人一人の生徒との対話を通じて、生徒自らが自分自身の課題をしっかりと受け止め、自己理解を深めていける様に支援していくことが大切です。主体的に自己の人生設計を行い、様々な選択肢の中から、自ら考え、自己決定できる能力を引き出すことを狙いとしています。

授業の1コマ ～コミュニケーションとは～

「コミュニケーションは大切！」ということは多くの人が理解しています。しかし、**そもそもコミュニケーションとは何か？**について正しく理解している人は案外少ないものです。

コミュニケーションは上手く話することができることと思っている人が多いですが、コミュニケーションの本来の意味からいえば、「**双方向の情報のやり取り**」ということです。そして、その情報は**言語情報・非言語情報の組み合わせ**であると言えます。授業ではグループワークなどでコミュニケーションが成立している場と成立できていない場を体感として理解してもらいます。そこから自分自身のコミュニケーションのクセやポイントに気づいてもらった上で、自分なりの目標を設定してもらいます。



活動報告

南砺市主催の「さくらボ」(多分野セミナーイベント)にて、CAN-道プロジェクトを紹介させていただく機会をいただき、一般の方向け講座を開催しました。

子育て中の方、日頃、子どもの指導に当たっておられる方向けの内容となっており、子どもたちにとって、自分の力を

引き出すための「言葉」の使い方や、「考え方」、大人からの子どもへの声かけについてなど、具体的な方法や事例を学びました。「言葉そのもの」が持つ不思議な力についての理解を深めるために、体感できるワークも取り入れ、講座はとても盛り上がりました。

タイトル

「自分の力を引き出す方法」～テニス日本一から書家へ～

今回のメインスピーカーは、ソフトテニス日本一から、書家へ転身した片山諭志(書家 Satoshi)。

ソフトテニス現役選手の時、その後指導者になってからも常に「人の力はどうすれば発揮できるか(引き出せるか)」について様々な分野から学び続けることをやめなかった。自分が選手時代に「言葉」に励まされた経験や、「考え方」が行動と結果に大きな影響を与えることを確信するようになる。現役引退後、自分も「言葉」で人を力づけることができたらと思うようになり、書道経験ゼロから筆を持ち「人を見て言葉を書く」という書家の活動をスタートする。

人を見て、言葉を書こうと思ったのは「一人一人が自分の力と可能性に気づいたら、さらに人生は良くなる」という思いがあるからです。ソフトテニスを通じて自分の描いた目標を達成できたこと、その過程で学んだ事は、今の書の活動に確実に生きています。



講師近況紹介



看板屋まきあど/「なんとくきばりプロジェクト」リーダー

川田 真紀 (MAKI KAWADA)

なんとくきばりプロジェクトについてのお話と、木っ端を使ったワークショップを開催。



なんとくきばりプロジェクト®
www.facebook.com/kikubari

「木」南砺市の木を使って森を元気にします!

「気」森を守ろうという気持ちを啓蒙普及します!

「希」木育活動を通じて、未来を担う子供達に伝えます。



なんとくきばりプロジェクトが生まれたキッカケは南砺市での豪雨災害。大規模な災害が起きてしまったその原因のひとつとして“森林の手入れが足りていないこと”だと思い、南砺市産木材を利用促進する活動をスタートしました。

Information

【道 Project】では、講師派遣を行っています。

学校などの趣旨に合わせてご希望の講師を選んで頂き、授業・学年集会・PTA 活動、各種組合団体、会社などに講師を派遣いたします。スケジュールやご予算など、気軽にご相談ください。

様々な職業の大人が講師となりそれぞれが歩む道(仕事)についての内容、そこに懸ける思い、志、あり方などを授業・講演を通じて広く伝えます。

進路を考え始める年齢の生徒や学生たちに新しいきっかけや価値観を提供することが私たちの願いです。